

研究授業報告

4年担任 水谷 祐基

10月1日(火)に「相手のことを思いやり、だれとでも助け合う児童」の育成を目指して、4年2組で道徳の研究授業を行いました。

授業では、正直にすることのよさを考える教材として「新次のしょうぎ」というお話を扱いました。子どもたちは、不正して勝った新次が苦しさをかくすためニコニコしている場面で、「勝っても全然うれしくない。」と不正して勝っても、もやもやすることに気付きました。また、不正をしたことを後悔し、泣きながら帰る場面になると「伊三郎おじさんに謝らないと。」や「どうしてぼくは不正をしてしまったんだろう。」など、不正したことに対しての後悔の気持ちについて考えを深めていました。学習の最後には、今までの自分自身の経験から、正直にすることのよさについて考えました。「友達に嘘をついたけど正直に伝えた」や「先生に忘れ物を正直に伝えた」などそれぞれの経験を思い出し、自分自身がすっきりした気持ちになったり、正直に伝えてもらった相手も嬉しい気持ちになったりする正直のよさを一人一人が感じていました。教師や友達の話当真に聞き、自分なりに考えをもったり改めたりすることができました。

